氏名	宮 下 知 義
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 139 号
学位授与の日付	昭和40年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	**肺結核における肝機能障害に関する研究** **第1編 換気機能障害と肝機能障害の関係について** **第2編 換気機能障害と尿中乳酸排泄量焦性ブドー酸排泄量及びアセチル化能について**
論文審査委員	教授 小坂淳夫 教授 平木 潔 教授 小川勝士

学位論文内容の要旨

肺結核患者における肺の換気機能異常が肝に及ぼす影響を検討する目的で比較的病状の安定した肺結核患者52例を対象として肺結核の病態，特に肺の換気機能異常と肝機能検査成績を対比し，更に尿中乳酸値，焦性ブドー酸値及びアセチル化能と比較検討した。

実施した肝機能検査のうち Gros 氏反応，高田氏反応，ＣＣＦ，及びＢＳＰは病症度とよく平行する傾向がみられたが，ＴＴＴは一定の関係を認めず，黄疸指数は空洞を有する症例に軽度の上昇を認めたのみであった。また%肺活量と肝機能検査の関係についてはＴＴＴを除く Gros，高田，ＣＣＦ，黄疸指数及びＢＳＰとの間に推計学的に有意の相関関係を認め，肺の換気異常が肝障害に対して重大な影響を及ぼすことが推定された。

尿中乳酸値は空洞を有する症例に比較的増加を認めたのみで他の検査項目，特に%肺活量との間にも有意の関係を認めなかった。

尿中焦性ブドー酸値は空洞を有する症例に増加を認め，罹病期間と相関関係を認め，また%肺活量低下例において増加する傾向を認めた。

アセチル化能については病症度，%肺活量などとの間に一定の関係を認めなかったが，全症例に著明な低下を認め，特にＰＡＳ，ＳＦ使用群に著しい低下を認め，肺の病状以外に化学療法の影響が強い事が推定された。

論文審査の結果の要旨

宮下知義提出の「肺結核における肝機能障害に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は，次の通りである。

著者は肺結核における肺の換気機能の低下にともなう低酸素血症が肝機能障害に如何ように及ぼすかを知るため，第1編では過去に外科療法を実施したことなく，比較的病状の安定した肺結核患者のうちから，肺疾患の既往歴がなく，合併症を併わない症例につき，肺の病巣の軽重とくに肺の換気機能異常と肝機能検査成績を対比して検討を加えた結果，病巣の軽重，拡り，空洞の有無などと肝機能，なかんずく高田反応，ＣＣＦ，ＢＳＰ試験などが相関性がつよく，特に%肺活量と黄疸指数およびＢＳＰとの間にはきわめて有意の相関性をみとめた。この関係より肺の換気機能異常が肝の障害に対し重大な影響を与えることを明らかにしたこととなる。そこで更にこれらの影響を明らかにするため，第2編では全身の低酸素血症に鋭敏な焦性ブドー酸値を中心に，乳酸値の尿中の消長を検討すると共にアセチル化能を測定したが，尿中焦性ブドー酸値排泄量のみ，空洞の有無，罹病期間，%肺活量などと相関性をみとめた。このことは肺結核症における肺機能が肝代謝に密接な影響を及ぼし引いては肝機能障害を来すことを実証するものである。

以上の通り本論文は新しい知見に富み，学術上有益であり，著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。